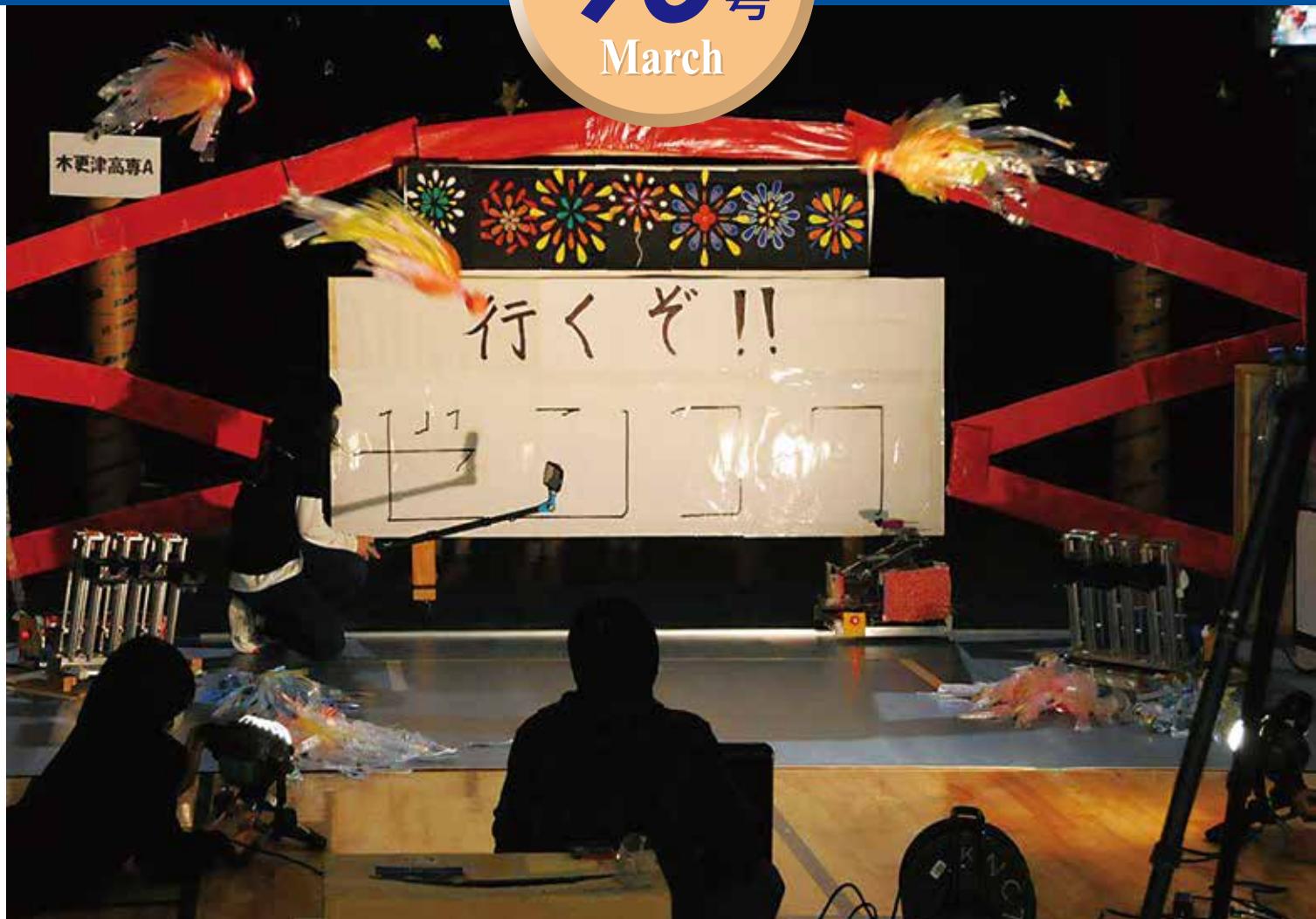




木更津高専だより

2021
90号
March



(高専ロボコン2020 パフォーマンスの様子)

Contents

校長挨拶	1
主事、専攻科長挨拶	2~3
地域共同テクノセンターの活動報告、国際交流センターの活動報告	4
ロボコン(地区大会)、 総務省主催2019高専ワイヤレスIoT技術実証コンテスト	5
学生の特別表彰、サイバーセキュリティ教育の取組み	6
お知らせ	7

校長 佐久間 研二

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお慶び申し上げます。卒業生・修了生の皆さんには、5年間あるいは7年間、木更津高専において、学業・クラブ活動・寮での生活・各種コンテスト等を通じて、多くの事を学び、多くの友人を作り充実した学生生活を送られたことでしょう。この思い出、自信を胸に新たな一步を踏み出してください。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で年度当初から全面的な遠隔授業となり、その後、遠隔授業プラス週一回の分散登校で授業を実施しました。

皆さんが遠隔授業という新たな取組にも柔軟かつ的確に対応し学びを継続し、卒業・修了を迎えることができたことは、皆さんの弛まぬ努力の賜物です。心より敬意を表します。

コロナ禍のような緊急事態の中で、いかに対応するかといった課題解決能力は、社会に出てからも極めて重要な能力です。高い専門知識、優れた技能を有することは、技術者としてある意味当然ですが、皆さんには、それと同時に常に社会の変化等にも敏感で、柔軟な思考と的確な判断能力を持った人材になって貰いたいと思います。

木更津高専は、令和3年度中に雄峰寮の改修、国際寮の新設が実現し、新たな飛躍のための環境が整う予定です。これを契機に、国際化の一層の推進等、本校の強みを活かした取組を強化していきます。皆さんのが「木更津高専出身です」と誇らしく言えるような存在になれるよう努力していきたいと思います。

卒業生・修了生の皆さん、それぞれの進路において、その力をいかんなく発揮し、本校の卒業生のレベルの高さを社会に示して下さい。そのことで高専教育の重要性が益々認知され、充実されるという好循環で、木更津高専が更に発展していくければと思います。

皆さんのこれからのご活躍と輝かしい未来を心より祈念しています。



●主事・専攻科長挨拶

教務主事 岡本 保(電気電子工学科 教授)

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。木更津高専で過ごした日々は充実したものであったと思います。また、卒業・修了はみなさんの努力の成果です。木更津高専で学んだことには是非自信を持ってください。



今年1年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの授業が遠隔で実施される、多くの学校行事が中止となるなど、環境が激変しました。その中でみなさんは様々な工夫をして勉学に励んだだと思います。遠隔での勉学は、通常の対面授業に比べて、自分の頭で考え、より主体的に学ばなくてはならなかつたと思います。学校行事の中止などは寂しい面もあったと思うが、このような大きな環境の変化の中で学んだ経験は将来きっと活かされると思います。競争の中で勝ち残ることももちろん必要ですが、環境変化に適応することがより重要だと思います。みなさんはこれからアフターコロナの時代を生きていくことになり、多くの答えのない問題に取り組まなくてはならないと思います。木更津高専で身に着けた力を活かして、人生を切り開いていってください。実践的・創造的技術者として、皆さんの今後の活躍に期待します。

学生主事 鈴木 道治(基礎学系 教授)

卒業生・修了生の皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。学生生活の最後の1年が新型コロナウイルスのためにそれまでの学生生活とはまったく異なるものになってしまいましたが、この1年間はみなさんにとってどういった意味を持つものになるでしょうか。



目に見えないウイルスが世界中のありとあらゆる動きに圧倒的な影響力を及ぼすことにだけ焦点を当てるのではなく、この事象はこれから皆さんが船出する社会で起きる様々な事柄の序章に過ぎないと想像できるのではないかでしょうか。

いま世界が抱えている問題・解決を待っている問題は新型コロナウイルスの他にも数多あります。例えば地球温暖化を取り上げてもわかるように、どれ一つ取っても決して一人の力で解決できるものではありません。しかしそれだからといって、我々が何もしないでいいというわけではないと思います。一人一人の力は微力でも無力ではないのです。

皆さんのが持っている力(潜在力も含めて)を待ち望んでいる人は日本のみならず世界中にいるはずです。しかしながらまだ学ぶことは多いと思います。一生学び続けなければならないでしょう。

これからは「勉強」ではなく、本当の「学び」へと移行しましょう。本当の「学び」ほど楽しいものです。

寮務主事 清野 哲也(人文学系 教授)

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

令和2年度は新型コロナウイルスに翻弄された年でした。感染拡大は日常生活の在り方に大きな影響を及ぼし、衛生管理の観点から「新しい生活様式」の枠組みが示されることとなり、意識と行動の変化を求められるようになりました。これを踏まえた学校運営の形の一つが遠隔授業であり、本校でも分散登校と組み合わせた遠隔授業方法へと切り替わりました。また、この授業形式は後期も継続となりましたが、通学生、及び学寮改修工事により入寮枠外となった寮生の通学要件、感染リスク等の諸要素を総合的に勘案した上で重要な判断であったといえます。



さて、授業のことを含め、コロナ禍を契機として世の中は一気にリモート化が進んだわけですが、そこにはメリット、デメリットがあり、環境ごとに見えた課題もあるはずです。しかし、一方では共通したものもあり、その一つが“自分で探し取りに行く姿勢”的重要性ではないかと思います。リモート環境下では外から見えにくいところも多いのですが、そこを自分でどう取り組むかが問われている、また今後より強く問われるるのは間違いないかもしれません。本校で積み上げたものを土台にして、これから臨む新しい生活環境でも力を発揮してほしいと思います。皆さんの今後の大いなる飛躍を期待しています。

専攻科長 上村 繁樹(環境都市工学科 教授)

本科卒業生、専攻科修了生のみなさん、ご卒業・修了おめでとうございます。また、卒業生、修了生のご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。



今年度をもって専攻科長を退くことになりました。このように皆さんへのご挨拶をまとめておりますと、就任当時の頃の思い出が少しずつ蘇ってまいります。

卒業生・修了生の皆さんは、高専在学中に様々な出来事があったことだと思います。講義や実験・実習で学んだこと、体育祭やスポーツデーで頑張ったこと、研究で苦労したことや学会での研究成果の発表など、多くの経験をされたでしょう。とくに、今年度は、コロナウイルスの世界的パンデミックがありました。研究や学業、部活動など、思うようにいかないことも多々あったと思います。そのような中、大変なおもいをしてのご卒業・修了となります。この困難を乗り切ったことに胸を張って頂きたいと思います。

どうかご卒業・修了されても木更津高専での経験や、出会った友人、教職員など沢山の人々のことを思い出して下さい。きっと皆さんの宝物になると思います。

皆さんの明るい未来に向けて、今後のご健闘とご活躍をお祈りいたします。

地域共同テクノセンターの活動報告

地域共同テクノセンター長 青木 優介(環境都市工学科 教授)

令和2年度における地域共同テクノセンターの活動を報告します。

まず、本校の活動についてですが、例年、本校では出前授業や公開講座などの様々な地域貢献活動が実施されてきました。しかし本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により企画すること自体が難しく、寄せられるご要望も少なく、仮に、その両方が整ったとしても開催を中止せざるを得ない事例が相次ぎました。その中にあって、万全の感染対策を講じたうえで、近隣の中学校での出前授業や本校内でのワークショップなどを数件実施させていただけました。実施いただいた皆様、また、実施できなくともそれをご検討いただいた皆様に、改めまして感謝申し上げます。

つぎに、木更津高専技術振興交流会関連の活動についてですが、同会は千葉県内を主とする多くの企業様と木更津高専との連携を目的とする会となっております。今年度は4月と12月に予定されていた役員会がメールでの開催、5月に予定されていた総会もメールや文書等での開催となり、会員の皆様と木更津高専教職員が対面する機会がほとんど得られませんでした。また、毎年夏休みの大人気イベントであるキッズサイエンスフェスティバルが中止になりました。来年度こそは、会員の皆様や元気な小学生たちと対面できる状況になることを祈っております。一方、令和3年2月のテクノフォーラムはオンライン形式での開催、同年3月の会社&インターンシップ説明会も各企業様のご協力によりオンライン形式での開催となりました。

以上、令和2年度の活動報告とさせていただきます。



本校内でのワークショップの様子

国際交流センターの活動報告

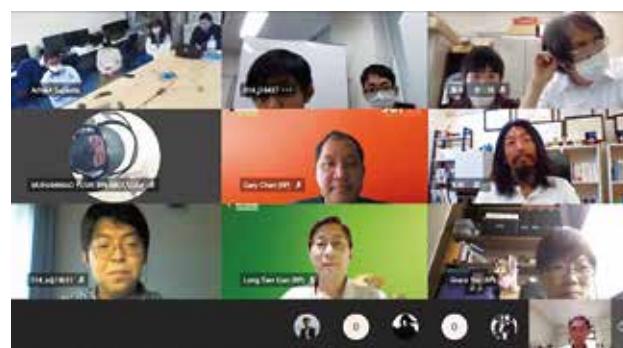
国際交流センター長 SAPKOTA ACHYUT(情報工学科 准教授)

国際交流センターでは、「海外教育機関との連携(協定締結や交流の実施)」、「学生の海外研修の企画立案」、「留学生への支援」などを行っており、様々な国際交流が実現できる場を用意しています。令和2年度は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、シンガポールやマレーシアの協定校とオンラインによる交流を実施しました。



【マレーシアSekolah Sultan Alam Shah(SAS)とのオンライン国際交流】

SASからは19名、木更津高専からは9名が参加しました。異文化コミュニケーションを目的として、「お米 RICE」をテーマに、マレーシアと日本のお米の種類、お米を用いた食品及び食文化について、発表とディスカッションを行いました。



【シンガポールRepublic Polytechnic(RP)より特別聴講学生の受け入れ】

例年高専の寮に宿泊し、配属先の研究室で実施している特別聴講学生の受け入れを、今年度は遠隔で実施しました。RPの4名の学生は、情報工学科の3つの研究室へ配属され、Microsoft Teamsを通じて遠隔で指導を受け、所属研究室の学生と交流しながら研究を行いました。

ロボコン(地区大会)

ロボコン指導教員 伊藤 裕一(機械工学科 准教授)

一時は開催も危ぶまれた 2020年度の高専ロボコンは、史上はじめてのオンライン大会となり、2020年11月8日(日)に各高専と配信会場をオンラインで結ぶ形で開催されました。関東甲信越地区大会では10高専26チームが参加し、木更津高専からは、ロボット研究同好会が製作した1チームが参加しました。(ロボット名:幻の花火) 今年の公式競技課題名は「だれかをハッピーにするロボットを作つてキラリ輝くパフォーマンスを自慢しちゃおうコンテスト、略称:はぴ☆ロボ自慢」でした。例年のロボコンでは「1対1で何かを競う」タイプのコンテストだったところ、今年度はガラリと変わったテーマに学生さん達も面食らったようでしたが、逆に、例年のロボコンではできなさそうなことをやろうと、自由な発想の元、アイデアを練り上げました。今年度のロボット:幻の花火 は、開催中止となつた「木更津港まつりの花火大会」をモチーフに、ロボコンらしい花火を打ち上げ、さらに、直立面に筆で文字を書き、これをスマートフォンで撮影、生配信することで私達がロボコン活動をできていることへの感謝の気持ちを皆さんに伝えようというコンセプトのロボットでした。

今回のオンラインロボコンは、各高専からのロボットのパフォーマンスの生配信だけでなく、公式サイトによるバーチャル会場も作成され、バーチャル会場内では、自分の分身のアバターを操作し、会場内を行動することで、大会の視聴だけでなく、協賛企業様の工夫を凝らしたコンテンツの体験も可能でした。

木更津高専のパフォーマンスは 50点満点中 39点の成績でしたが、残念ながら決勝ラウンドに進出することはできず、予選敗退となりました。今年度は、例年にはない厳しい活動時間での開発でしたが、ロボットの完成度としては、例年以上のものができました。しかしながら、オンライン配信への意識が若干足りず、見せ方・魅せ方の部分で損をしてしまいました。

今年度、私たちがロボットを作り、そしてロボコン大会でパフォーマンスを披露できたことを、大会運営の皆様、ご家族の皆様、本校教職員の皆様、すべての方々に感謝致します。
そして今後もさらに技術を磨き、己を磨き、より良いロボットを製作していきますのであたたかい応援、何卒よろしくお願い申し上げます。



総務省主催2019高専ワイヤレスIoT技術実証コンテスト

指導教員 栗本 育三郎(情報工学科 教授)

全国の高専生向けに総務省が主催するワイヤレスIoT技術実証コンテストの5G活用部門にて、チーム CrowLab(2019年当時:木更津工業高等専門学校情報工学科5年 中村颯太、制御・情報システム工学専攻1年 宮良大地、指導教員 栗本育三郎)のテーマ “Telexistence Cybernetics Crow” がプロダクトデザイン大賞に輝きました。次世代の5G(第5世代移動通信システム)を用いてカラス被害抑制のため、人とカラスとのコミュニケーション向上を目指し、遠隔制御型カラスロボット(地上型、剥製翼飛行体)を開発して、総額 225万円の補助を受け技術実証を実施するという内容でした。



遠隔制御型カラスロボットの5G実証風景



プロダクトデザイン賞受賞

学生の特別表彰

次の学生の皆さんには、課外活動および学業において優れた成果を挙げた業績により、特別表彰として、校長より賞状と副賞が授与されました。今年度の表彰式は、新型コロナウイルス感染防止のため、関係者のみで行われました。

令和2年度 優秀学生

機械工学科	5年	年代朋生
電気電子工学科	5年	高橋正弥
電子制御工学科	5年	井筒勇太
情報工学科	5年	飯棲俊介
環境都市工学科	5年	浅沼知希

※優秀学生には、卓越した学生に対する授業料免除または創立50周年記念事業冠奨学金より副賞が授与されています。

2019年度高専ワイヤレスIoT技術実証コンテスト

プロダクトデザイン大賞(栗本研究室)

代表学生 制御・情報システム工学専攻 2年 宮良大地

2019高専機構・防災科研協働コンテスト

第2回地域防災力向上チャレンジ最終審査会・最優秀賞(大枝研究室)

代表学生 情報工学科 5年 飯棲俊介

※特別表彰…担任等からの推薦に基づき、賞罰審査会議において、特に優れた成果を収めた学生に対し表彰をするもの。(学則第52条)

サイバーセキュリティ教育の取組み

担当 丸山 真佐夫(情報工学科 教授)

サイバーセキュリティ人材育成事業(K-SEC)は、情報セキュリティ人材育成のための全国高専の取組みです。本校はK-SECの第2ブロック(関東信越+福島・沼津)の拠点校として、学内のみならず第2ブロックや高専全体のサイバーセキュリティ教育の充実のために学生向け講習会、教員育成、教材開発などの活動を行っています。

今年度は、高専セキュリティコンテスト、セキュリティインタースクールがオンライン開催に変更されるなど、新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。セキュリティを学ぶ全国高専生との交流の機会が減ったことは残念ですが、一方で遠隔の高専間で講義、実習を共同で行う、今後の高専におけるセキュリティ教育発展の可能性を示したものと思います。



関東管区警察局によるサイバーセキュリティ講演会(12月14日)

お知らせ

保健室より



今年度は、新型コロナウイルス感染症により、いつも以上に感染症対策に気を付けて過ごしてきた1年でした。新型コロナは来年度も引き続き注意が必要な状況です。各自、学校から配信される対応指針や連絡をしっかりと確認した上で学校生活を送るようお願いします。

幸いインフルエンザの報告は少ないですが、ノロウイルスによる感染性胃腸炎も注意が必要な季節です。感染症予防の基本は、正しい手洗いです。石鹼をよく泡立てて、トイレの後、食事の前、調理の前後、外出から帰宅した時など、忘れずに行うようにしましょう。

- ・十分な休養と栄養補給、うがい、咳エチケット、マスクの着用、3密を避け、「新しい生活様式」を心がけましょう。
- ・体調が悪い時には登校を控え、医療機関で診察を受けてください。感染症に感染している、またはその疑いがあると診断された場合は、公欠(要診断書等)となります。

春休み中は生活のリズムが崩れがちです。毎年春休み明けには、昼夜逆転など、不規則な生活が原因と思われる体調不良の人が多く来室されます。新学期に良いスタートを切れるよう、規則正しい生活を送るようにしましょう!

<健康づくりのための睡眠指針2014～睡眠12箇条～>

1. 良い睡眠で、からだもこころも健康に。
2. 適度な運動、しっかり朝食、ねむりとめざめのメリハリを。
3. 良い睡眠は、生活習慣病予防につながります。
4. 睡眠による休養感は、こころの健康に重要です。
5. 年齢や季節に応じて、ひるまの眠気で困らない程度の睡眠を。
6. 良い睡眠のためには、環境づくりも重要です。
7. 若年世代は夜更かしを避けて、体内時計のリズムを保つ。
8. 勤労世代の疲労回復・能率アップに、毎日十分な睡眠を。
9. 熟年世代は朝晩メリハリ、ひるまに適度な運動で良い睡眠。
10. 眠くなってから寝床に入り、起きる時刻は遅らせない。
11. いつもと違う睡眠には、要注意。
12. 眠れない、その苦しみをかかえずに、専門家に相談を。

(健康づくりのための睡眠指針 2014厚生労働省より引用)



年度末・年度始めの行事

- 2/27(土)～3/31(水) 学年末休業
3/19(金) 卒業式・修了式
4/1(木)～4/4(日) 春季休業
4/3(土) 開寮(2年生以上)
4/4(日) 開寮(新入生)
4/5(月) 入学式
4/6(火) 始業式・入寮式
4/7(水) 授業開始

学生相談室より

学生相談室は、皆さん一人一人が充実した学生生活を送るようにサポートしていくところです。相談内容については固く秘密を守りますので安心してください。相談室は講義棟A 1階 保健室隣にあります。保護者の方の相談も対応いたします。

☆相談内容としては次のようなことが挙げられます。

- ・学業・進路について
- ・自分の性格や対人関係について
- ・健康について
- ・その他(家庭の事情で悩んでいる、経済的に困っている、恋愛、性、宗教のことなど)

☆いつ?

- ・学生相談室長及び看護師は、隨時
- ・カウンセラー(長期休業期間や試験期間は変更の可能性があります。)
愛甲先生 火曜日の10時～17時
木曜日の13時～17時
金曜日の13時～18時
月1回 水曜日の17時～19時
坂本先生 月曜日の12時～17時
水口先生 水曜日の12時～17時
それぞれ、相談に応じています。



☆相談予約は?

- ・保健室で受け付けています。
電話:0438-30-4036
E-mail:soudan@a.kisarazu.ac.jp

教職員の異動

【採用】11月11日

学生課教務係 鈴木 華乃

祝永年勤続(勤続20年)教職員表彰

- 人文学系 准教授 岩崎 洋一
機械工学科 准教授 伊藤 裕一
情報工学科 准教授 斎藤 康之

叙勲 令和2年秋の叙勲 瑞宝双光章

※敬称略
吉田 泰三 (元事務部長)

